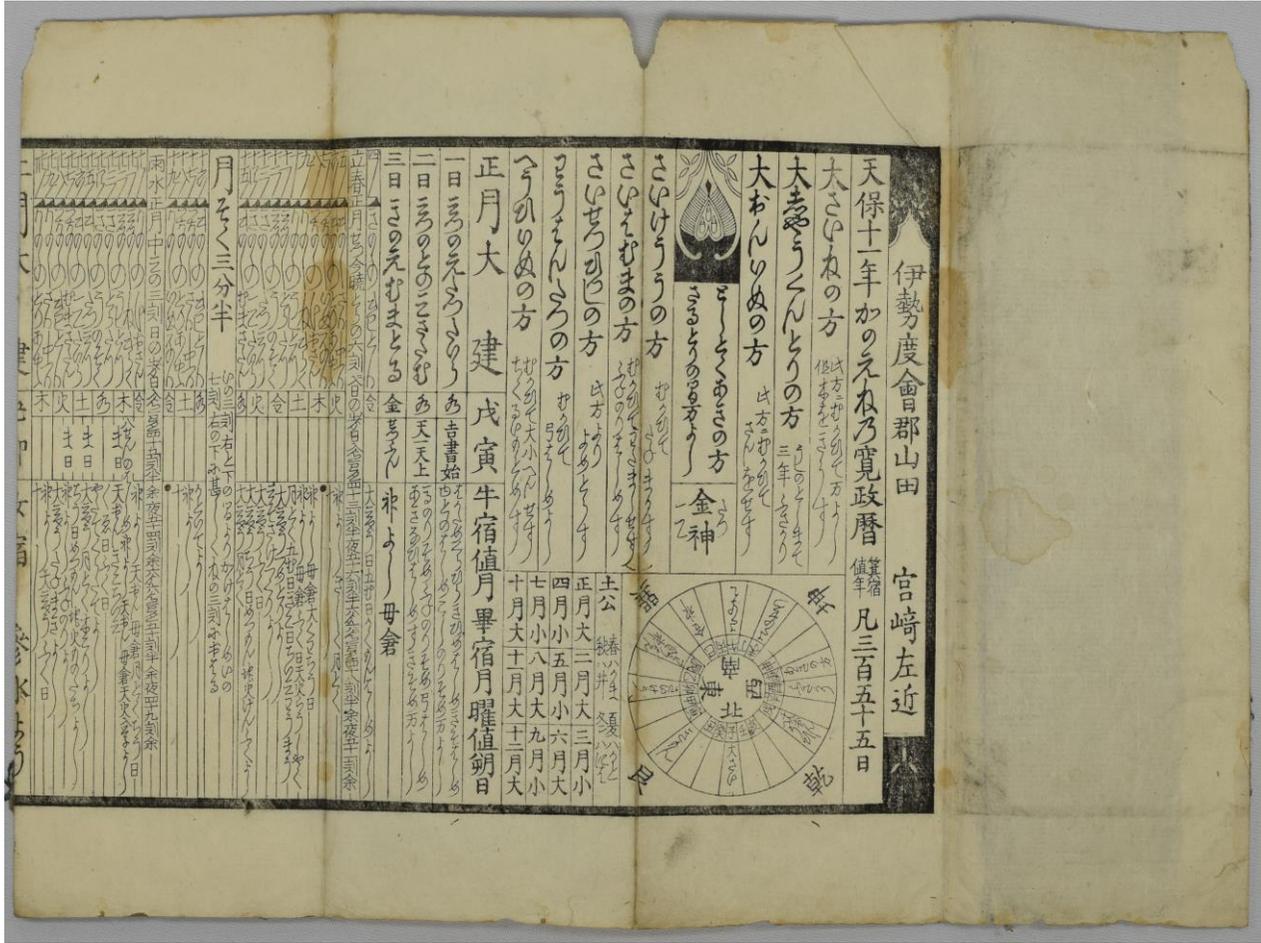
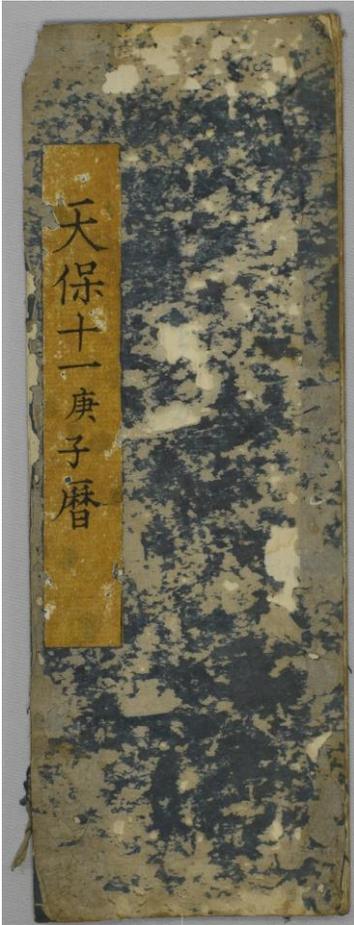


「今年は庚子（かのえね）」



デジタル資料室「今年は庚子（かのえね）」

【資料名】 天保十一庚子曆（鶴足郡土器村進藤家文書 1873）

【年代】 天保十年（一八四〇）出

【作成】 伊勢度会郡山田宮崎左近

【解説】

天保11年（1840年）は、ちょうど180年前。

干支は、今年と同じ「庚子」である。

「庚子」とは何か。

今年の年賀状はねずみ尽くし。十二支のうち、子の年だからである。

近年では「干支」というと、十二支を指して言うことが多いが、本来は、

十干（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）と、十

二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）の組み合わせ

を「干支」という。全部で60通りあり、「庚子」はその中のひとつだ。

はたして、10×12は120通りではないのか。

それぞれが毎年ひとつずつ進むので、どちらかの奇数番目と、どちらかの偶数番目は決して一緒にはならない。したがって、半分の60通り、となる。

「還暦」という言葉をご存知の方も多いただろう。干支が60年かけて一巡して、生年の干支に戻ることでめでたいとして、祝ったものである。昔は今よりも平均寿命が短く、60歳で一区切りであったのだろう。さらに古くには40歳から祝っていたこともある。

だが、現代社会において60歳は若い。70歳の古稀、80歳の傘寿はもちろん、近い将来、二度目の還暦を迎える人が現れるかも知れない。

また、昔の暦において、干支は月日にも用いられた。史料を見ると、日付の下にびっしりと干支が書き込まれている。左半分は現在のカレンダーと似ている部分もあり、なんとなくわかる。なじみがないのが右半分だ。

まず一番右に「伊勢度会郡山田 宮崎左近」とある。発行元の名だ。この暦は「伊勢暦」といい、全国でも有名で、一時は市場占有率が半数に上ったという。次に「天保十一年かのえね乃寛政暦 箕宿値年 凡三百五十五日」と続く。箕宿とは二十八宿のひとつ。

その後は、方位吉凶一覧が並ぶ。八将神や、歳徳神、金神の在する方角が干支で書かれていて、その性質によって、その方角ではいけないこと、したらいことが書いてある。

金神は金運かな、とお思いの方。この方位は何をやっても大凶である。あらゆる行為において、金神の在する方位を犯した者とその周辺には破滅が訪れる、と恐れられている。今年の暦に見つけたときは、ご注意ください。

このように、干支は年月日、方位、ひいては占いなど、暮らしに密接に関係していた。あなたも今年「庚子」の運勢を占ってみてはいかがだろうか。